

研究通信		能美市立寺井中学校
No.4	校内研修振り返り	研究部
		2020年4月17日(金)

柱②：「わかる」「できた」を実感できる生徒主体の授業づくり

■4月校内研修会 振り返り

日時 令和2年4月14日(火) 8:30~10:00 終了後教科部会

内容 ①今年度の研究の方針について

②模擬授業(授業者:小川 恵美教諭 教科:国語)

単元:1年 生き物のつながり有識者会議2019で考えを語ろう~幻の魚と身近な〇〇~)

※「授業改善3つのポイント」にもとづく授業

③授業の振り返り/本研修会に関わる質疑・協議・感想

④校長先生より

◇研修でよかったところ(一部抜粋)

- ・今年度の取り組むべき内容が見えた。
- ・一つの授業にかける準備の大切さを改めて知りました。
- ・可視化が多くて分かりやすかった。(自分の立場を示す紙や黒板に隣・個などのカード)
- ・小川先生の素晴らしく練り上げられた指導計画に触れることができたところ。
- ・小川先生の授業に向かう姿勢。生徒とつくりあげた国語科としての蓄積。
- ・模擬授業を通して授業改善のポイントを再確認できました。
- ・意思表示カードの使用や起立を求める場面を設けるなど参加せざるを得ない、活動えざるを得ない授業にする大切さを改めて感じられました。
- ・生徒が深く考えられる場面を多々設定されており、自分の授業でも生かしていきたいと思った。
- ・単元マップ作成の目的について理解しました。
- ・単元をつらぬくゴール、それに対する手立てを学ぶことができ、とてもためになった。
- ・国語科の長文読み取りで終わらず、社会に出てからも役立つ力までつけさせる手立てが素晴らしいと思いました。
- ・「0時間目」「材料を十分に用意させてからまとめへ」というのはねらいを設定し、逆算的に授業を組み立てることが前提なのでぜひ真似したいと思いました。
- ・教科書を読むためだけに使用するのではなく、自分の考えを書くための資料のように利用している所が良かった。
- ・国語と限定された授業ではあったが、他教科にとっても教科横断型の力が大切だと感じさせる内容で、自分の教科ができることは何か意識するきっかけとなった。
- ・ペア学習を確実に行うことができるしかけがあった点。(挨拶の後、活動を終えて座ること)
- ・いい授業の裏にはたくさんの準備が大切だということ。
- ・他教科を参観する機会があまりないのでとても参考になりました。

◇今後に生かしたいところ(一部抜粋)

- ・自分の教科で単元を見通した計画を立てられるように、どんな力をつけるのかを共有し組み立てを考えたい。
- ・指導や評価の計画をもっとしっかり立てる点。
- ・授業のねらいやまとめだけでなく、単元全体を見通した構成を考えていくこと。
- ・単元マップのゴールをしっかりと考え、計画的に取り組みたいです。

- 単元マップをもとに生徒が達成感を持てる授業実践。
- 単元マップのスタイルを同じ教科の中で共有することで、少なくとも教科の中での統一感が生まれるのは子どもたちにとっても良いことだろうなと思いました。
- 各単元の学びが今後どのような場面で生きるのかを生徒に伝えること。（教科の良さを伝えること）
- 興味を持って取り組める課題設定。
- 画用紙を使って自分の立場（気持ち）を示すこと（班、個のカード）
- 有識者になりきって会議をするという課題が魅力的で、英語のディベートなどでやってみたいと思いました。
- 小川先生のワークシート、貼り物、単元構成など
- 生徒が自分の意見を客観的に分かるようなしかけをつくる点。
- 生徒が聴く、考える、話す場面を明確に区切り活動にメリハリがついていたところ。
- ベン図などの思考ツールを用いた授業展開。
- 参加度を高める工夫。
- 書くことが苦手な生徒であっても材料があってたくさん書けていたところ。
- 「これは使えるな」と思うような学びの価値を生徒が見出せるようにしたい。

単元マップについては、教科の特性を生かしながら、生徒にとっても先生にとっても使いやすいものをつくっていくために、今年一年実際に使用しながら改善していけたらと思いますのでよろしくお願いします。

■今後の研究授業について（確認）

- 11月中 計画訪問 3年 英語、2年 国語、1年 道徳
- 11/30 校内研修会（杉江先生）社会
- 2/19 校内研修会（杉江先生）数学